

2. 事業の概要と成果	
<p>(1) 上位目標の達成度</p>	<p>【上位目標】プロジェクト対象地域において、若者や妊産婦を含む女性の健康改善に寄与する。</p> <p>【プロジェクト目標】プロジェクト対象地域において、若者や妊産婦を含む女性の生涯を通じた保健サービス利用へのアクセスが増加する。</p> <p>達成度は下記の通り（一年次：2018年1月29日～2019年1月28日）：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設で出産する女性の割合： 50.5%（800件）。2017年45.9%（713件）に比べ4.6%増加。</li> <li>2. 産前健診を4回受ける女性の割合： 29.2%（462件）。2017年11.3%（175件）に比べ17.9%増加。 目標の15%増加を達成した。</li> <li>3. 産後6日以内・6週間以内に産後ケアを受ける女性の割合： 産後6日以内：62.6%（990件）。2017年47.8%（743件）に比べ14.8%増加。 産後6週間以内：27.2%（430件）。2017年20.2%（314件）に比べ7.0%増加。</li> <li>4. 10代による妊娠・出産の割合： 10代の妊娠数：369件。2017年296件に比べ24.7%増加。 10代の出産数：229件。2017年208件に比べ10.1%増加。</li> </ol>
<p>(2) 事業内容</p>	<p>事業内容は下記の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健施設で提供する妊産婦を含む女性の生涯を通じた保健サービスの質の向上       <ol style="list-style-type: none"> <li>1.1 保健医療従事者を対象に「クライアント・ユースフレンドリーサービス研修」「モニタリング支援研修」の実施</li> <li>1.2 母子保健棟、マタニティハウス、ユースセンター、助産師住居・水タンク、渡り廊下の建設及び基礎的医療機材・医療資材の供与（ワンストップサービスサイト@マサイティ郡ンジェレマニ保健センター）</li> </ol> </li> <li>2. 思春期、妊娠や出産、家族計画、乳がん、子宮がん、を含む女性の健康に関する知識と情報の増加       <ol style="list-style-type: none"> <li>2.1 母子保健推進員（SMAG）の養成研修（マサイティ郡・ルフワニャマ郡）及び若者ピア・エデュケーター養成研修（マサイティ郡のみ）</li> <li>2.2 学校教師・伝統的リーダーへのオリエンテーション・合同会合の実施</li> <li>2.4 コミュニティ参加型ペインティングワークショップ・施設の維持管理と開所式</li> <li>2.5 地域啓発活動計画の策定及び行動変容のためのコミュニケーション教材の供与、制作、配布</li> </ol> </li> <li>3. 持続可能なコミュニティ主体の活動支援に向けたモニタリング体制強化       <ol style="list-style-type: none"> <li>3.1 本邦研修</li> <li>3.2 プロジェクト地区運営委員会オリエンテーション</li> <li>3.3 SMAG 及び若者ピア・エデュケーターのレビュー会合</li> <li>3.4 ワンストップサービスサイト運営管理ワークショップ</li> <li>3.5 自立発展性のための相互視察研修</li> <li>3.6 プロジェクト地区運営委員会レビュー会合</li> </ol> </li> </ol>

(3) 達成された成果

1. 保健施設で提供する妊産婦を含む女性の生涯を通じた保健サービスの質の向上

(成果 1.1) 保健施設でサービスを利用した女性・若者の満足度が向上する「満足している」と回答した人の割合が、プロジェクト開始時 76.6%から1年次終了時の 87.3%と 10.7%の増加を示し、1年次の目標(10%増)を達成した。同様に、保健医療従事者のクライアントに対する態度の評価は、「親切な対応であった」が、プロジェクト開始時の 72.1%から 97.1%に増加した。2年次には、保健医療従事者を対象としたクオリティケア研修を予定しており、継続ケアに向けた質のよいサービスの提供を目指す。

(成果 1.2) マサイティ郡ンジェレマニ地区にて、4つ目のサイトとなるワンストップサービスサイトを設立し、母子保健棟、マタニティハウス、ユースセンター、助産師住居での保健医療従事者、SMAG、若者ピア・エデュケーターによる包括的な保健サービスの提供が可能となった。

ンジェレマニ地区の施設分娩件数は月平均 17 件 (2018)、14 件 (2017)であったが、ワンストップサービスサイト開所後の 2018 年 12 月は 30 件、2019 年 1 月は 25 件と大幅に増加した。

2. 思春期・妊娠や出産、家族計画、子宮頸がん、乳がんを含む女性の健康に関する知識と情報の啓発活動

(成果 2.1) 思春期、妊娠や出産、家族計画、乳がん・子宮頸がんを含む生涯を通じた女性の健康に関する知識や情報を得た住民及び若者の数は、女性 7,243 名、男性 5,033 名、若者 9,805 名と総数 22,081 名に達した。(年間目標 20,000 名)

マサイティ郡とルフワニャマ郡にて、計 180 名の SMAG とマサイティ郡にて計 60 名の若者ピア・エデュケーター (15 歳~24 歳の男女) を養成した。養成研修では、今年から子宮頸がんや乳がん等、女性の特有な疾患に特化した内容も扱い、思春期保健、母子保健のみならず生涯の女性の健康に関わる幅広い知識・情報を提供した。

本プロジェクトで活用しているジョイセフエプロン (リプロダクティブヘルス視聴覚教材) は企業連携で実施している「女性の健康と自立プロジェクト」で SMAG が縫製スキルを学び、現地の材料を用いて制作したものである。本教材に女性特有の疾患 (子宮頸がん) の情報を追加し、生涯を通じた女性の健康への取り組みに対応した。また、啓発活動の一環として、前プロジェクトで制作した SMAG ハンドブック (英語版) の現地語版を SMAG の意見を取り入れ、完成させた。

(成果 2.2) パートナーの産前健診・産後健診・施設出産に付き添う男性がプロジェクト開始時より 20%増加する。

パートナーの産前健診・産後健診・施設分娩に付き添う男性の数は、2017 年の 613 人から 2018 年の 855 人と 242 人の増加を示した (39.5%)。

プロジェクト地区運営委員会のコミュニティリーダーを積極的に巻き込み、視聴覚教材である妊娠シミュレーターや SMAG ハンドブックで男性参加の重要性や妊娠時の男性の役割などを SMAG が紹介することにより、産前健診・男性の積極的な参加 (出産時に保健施設に付き添うなど) を促した。

(成果 2.3) 出産計画カードを活用する女性がプロジェクト開始時より 20%増加する。

出産計画カードを利用する女性の数は 2018 年 5 月~12 月の期間に 2134 人を記録した。2018 年 12 月~2019 年 1 月に実施した SMAG レビュー会合で

は、各地区に500枚のカードを補充し、SMAGや保健医療従事者が妊産婦へ対して早期の産前健診を促し、余裕を持った出産準備が計画できる環境を整えた。

**(成果 2.4) 月経にまつわる迷信・理解について正しい知識が20%向上する。**

ベースライン調査と1年次終了時に実施した聞き取り調査をもとに下記の結果が確認された。月経の正しい知識は、ほぼすべての項目で向上した。(調査対象：小・中学校(6校)に通う女子学生(10才~22才)130名)

- ① 月経について聞いたことがある (「はい」と回答)  
ベースライン 91.5% → 1年次終了 96.2%
- ② 月経中の女性は妊娠しない (「間違い」と回答)  
ベースライン 41.5% → 1年次終了 47.7%
- ③ 月経時に水の中に入ると月経が終わる (「間違い」と回答)  
ベースライン 64.9% → 1年次終了 64.6%
- ④ 月経中の女性は、台所に入ることや料理をしてはいけない (「間違い」と回答)  
ベースライン 40.4% → 1年次終了 50.8%
- ⑤ 月経中の女性は、人と接触をしてはいけない (「間違い」と回答)  
ベースライン 66% → 1年次終了 76.2%

**(成果 2.5) 月経で学校を欠席した生徒の日数が10%減少する。**

1年次終了時の調査では、過去3か月に月経を理由に学校を欠席した生徒の数は、96名中33名(10才から22才)であった。欠席した日数は合計で85日間を記録した。欠席した理由の中には、出血が多い日用の布製ナプキンや市販の生理用ナプキンを持っていなかったためと回答した生徒が33名中12名であった。月経に備え、適切に学校で対応できる能力を身につけるための具体的な指導が必要であることが分かった。下記、月経で学校を欠席した女児の日数と人数の分布となる。

月経で学校を欠席した女児の日数と人数の分布 (2018年)

欠席日数	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	合計
生徒数	12名	8名	7名	1名	1名	1名	3名	33名
合計	12日間	16日間	21日間	4日間	5日間	6日間	21日間	85日

マサイティ郡(3地区)にて、若者ピア・エドューケーター60名を養成し、月経や10代での妊娠、早婚、性感染症、HIV/エイズ、家族計画といった思春期特有の課題に関する啓発活動が学校内外の若者を対象に行った。

また、マサイティ郡では、伝統的リーダーや学校教員、PTA役員といったメンバーで構成される思春期保健委員会を設立し、学校と地域、そして若者ピア・エドューケーターを巻き込んだ思春期保健の課題に取り組む支援体制を整えた。

2年次は、ルフワニャマ郡で60名の若者ピア・エドューケーターの養成を予定しており、月経や妊娠、性感染症、HIV/エイズ、家族計画といった思春期保健の知識の向上や行動変容を促す。

**(成果 2.6) 乳がん・子宮頸がんの相談件数が20%増加する。**

女性91名(15才~59才)を対象に乳がん・子宮頸がんに関する聞き取り調査を行った結果、乳がん・子宮頸がんに関する住民の知識に未だ多くの課題があることが判明した。また、乳がん・子宮頸がんの検診件数も低い。保健医療従事者や郡保健局、SMAGとの連携の下、住民が利用可能な保

健サービス（相談や検診）と正しい情報の提供を強化する。

- ① 子宮頸がんに関して聞いたことがある。  
はい 57.1% (52 人)、ない 42.9% (39 人)
- ② 子宮頸がんの症状はどういったものか。  
生殖器の痛みや膣分泌物 9.9% (9 人)、生殖器のかゆみ 13.1% (12 人)、出血や排尿時の痛み 9.9% (9 人)、知らない 26.4% (24 人)、該当なし 40.7% (37 人)
- ③ 子宮頸がんの原因は何か。  
割礼をしていない男性との性交渉 7.7% (7 人)、伝統的な薬の使用 4.4% (4 人)、複数の男性との性交渉 2.2% (2 人)、古着の着用とコンドームの使用 1.1% (1 人)、生殖器を石鹸で洗う 1.1% (1 人)、知らない 2.2% (2 人)、該当なし 81.3% (74 人)
- ④ 乳がんに関して聞いたことがある。  
はい 86.8% (79 人)、ない 13.2% (12 人)
- ⑤ 乳がんの症状はどういったものか。  
胸の腫れとしこり 50.6% (46 人)、胸の痛み 7.7% (7 名)、胸のかゆみ 13.2% (12 人)、発汗・動機 1.1% (1 人)、知らない 14.3% (13 人)、該当なし 12.1% (11 人)
- ⑥ 乳がんの原因は何か。  
遺伝によるもの 2.2% (2 人)、母乳を子どもにあげなかったため 2.2% (2 人)、下着にお金や携帯をいれるため 7.7% (7 人)、胸部からの膿によるもの 4.4% (4 人)、不衛生 1.1% (1 人)、虫からのウイルス 1.1% (1 人)、母乳がでない 1.1% (1 人)、知らない 3.3% (3 人)、該当なし 76.9% (70 人)
- ⑦ 子宮頸がんまたは乳がんの検査を受けたことがある。  
子宮頸がん検査 7.7% (7 人)、乳がん検査 25.3% (23 人)、検査（子宮頸がん・乳がん）を受けたことがない 67% (61 人)  
（理由）病気でないから 4.4% (4 人)、検査に関して情報がない（3 人）、検査を受けに行く時間がない 2.2% (2 人)、自分の周りに検査に行った人がいないから 1.1% (1 人)

### 3. 持続可能なコミュニティ主体の活動支援に向けたモニタリング体制強化

(成果 3.1) プロジェクト地区運営委員会によるコミュニティ活動計画が策定される

既存の保健委員会を活用し、伝統的リーダー、学校教師、宗教リーダー、女性リーダー、SMAG や若者ピア・エデュケーターで構成する地区運営委員会を各 6 地区に設立し、プロジェクトの持続へ向けたコミュニティ活動計画を策定した。12 月には、収入創出活動 (IGA) ワークショップを実施し、竹内幹也専門家（塩野義製薬株式会社協力）による IGA を行う上での基本的な経営方法（マーケティング、財務管理、原価計算等）についての技術指導を実施した。また、フェーズ 1 の IGA モデル地域であるワンストップサービスサイトへの交流視察を実施した。コミュニティ主体によるヤギの飼育、農作物の栽培、縫製によるジョイセフエプロン制作などの経験を視察することで、より実践的で且つ持続的なコミュニティ活動計画が策定された。

(成果 3.2) 持続可能なコミュニティ主体の活動支援に向けたモニタリングが年に 2 回行われる。

モニタリング支援ワークショップを郡保健局と共同で開催し、コッパーベルト州保健局、マサイティ郡保健局、ムポングウェ郡保健局の関係者と

	<p>保健医療従事者 30 名が参加した。モニタリング専門家の佐藤美穂専門家（長崎大学）はモニタリングとデータの意義について講義及びアドバイスをを行った。SMAG の啓発活動用のモニタリングチェックリストを作成し、郡保健局や保健スタッフ、プロジェクトスタッフが主体的にモニタリングする体制を整えた。チェックリストを活用し、マサイティ郡保健局とともに子どもの予防接種週間を利用してマサイティ郡（2 地区）、ルフワニャマ郡（3 地区）のモニタリングを実施した。</p> <p><b>持続可能な開発目標 SDGs の達成</b></p> <p>本プロジェクトは、目標 3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」と目標 5「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」に寄与する。</p> <p>（目標 3）</p> <p>プロジェクト対象地での施設分娩の増加、産前・産後健診の受診の増加は、ザンビア農村地の妊産婦死亡の削減（目標 3. 1）、新生児死亡率の削減（目標 3. 2）に寄与したと言える。また、SMAG や若者ピア・エドゥケーターによる思春期、妊娠・出産、家族計画の啓発活動による住民の知識と情報の向上は、性と生殖に関する保健サービスの利用のアクセスの向上（目標 3. 7）へ向けた取り組みの一助となった。</p> <p>更に、保健医療従事者を対象としたクライアントフレンドリーサービス研修やモニタリング強化ワークショップの実施、視聴覚教材の開発は、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の達成（目標 3. 8）と保健人材の能力開発の拡大に該当し、ザンビア農村地での質の高い保健サービスの提供に貢献したと言える。</p> <p>（目標 5）</p> <p>伝統的リーダーや学校教員、PTA を巻き込んだ思春期保健員会の設立により、10 代での妊娠、妊娠による学校のドロップアウト、早婚、ジェンダーに基づく暴力などの課題を、住民が主体となり解決する支援体制が強化された。このことは、すべての女性及び女児に対するあらゆる形態の暴力の排除（目標 5. 2）と未成年の結婚、早期結婚といったあらゆる有害な慣行の撤廃（目標 5. 3）に該当する。</p> <p>ワンストップサービスサイトの設立により、女性及び思春期層の女児を含めた若者の保健サービスへのアクセスが向上した。更に、SMAG や若者ピア・エドゥケーターによる啓発活動や女性の健康づくりに関する視聴覚教材の作成により、より多くの女性、女児へ向けた健康促進が可能となった。これらは、性と生殖に関する健康及び権利への普遍的なアクセスを確保する（目標 5. 6）に貢献したと言える。</p>
<p>（4）持続可能性</p>	<p>①先行プロジェクトの経験や学びを通して、コミュニティ主体の持続した活動展開が新サイト（6 地区）にも浸透し、事業の持続性のための郡保健局によるモニタリング・支援体制が強化されている。</p> <p>②本年度実施した本邦研修において、保健省（中央）・郡保健局が其々に持続可能性を視野に活動計画を策定した。日本の学びを通して、母子手帳やパバママクラス（両親学級）の導入、各郡は、早期の産前健診受診の強化、子宮頸がん検診の検討など本来業務の発展型として立案した。2 年次、3 年次も継続して活動計画の進捗確認を行い、好事例や課題の共有を図りながら、プロジェクト終了後を見据えた支援を行う。</p> <p>③マサイティ郡ンジェレマニ地区に建設された母子保健棟、妊産婦待機所、助産師住居、ユースセンター、水タンクは、11 月 10 日の開所後、マサイティ郡保健局に譲渡した。その後、地区保健運営委員会、SMAG、若者ピア・エドゥケーターの代表が中心となり、施設管理委員会を設立した。同委員会が施設の</p>

維持・管理、そして郡保健局への報告を行うことになった。維持・管理については、チェックリストを作成し、住民が主体となり、保健スタッフのサポートの下、定期的な施設の管理を行っている。

④また、同地区では、ヤギの飼育や雑貨店での文具の販売といった収入創出活動が検討され、施設の維持に必要とされる資金が住民主体で計画されている。